



2012.1.1 発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦
 連絡先 04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



「子どもが遊べないですよ」 川越県土と現場検討会 10月22日 としとらず公園

自然の水辺喪失

今年の魚類調査の現場、「水辺再生100プラン」工事後のとしとらず公園では、自然土羽が壊され、ガサガサはなくなり、石は固定された。魚が棲みづらそうだし、子どもが入るのも危険になった。

埼玉県の「水辺再生」工事で水辺の自然が壊されている現象が起こっているようだ。このプランは自然の再生というより、水辺のにぎわい創出が目的だと言われれば、なる程と思う。成功した所もあるであろう。しかしその川の持っていた良さが、工事がかえって失われたのではと思える箇所も目にする。本当に工事が必要だったのかと思える場所も。

そもそも、「4年間で100箇所を対象にそれぞれ2年で完成させる」プロジェクト自体が無理の多いものではなかったか。数合わせやスケジュール合わせの側面があるとしたら、川の生態と最もかけ離れたやり方である。

県の報告によると100箇所の工事はほぼ実施されたようだ。結果の検証が必要である。 (田上)



別名 サイトウガヤ(西塔茅)
 イネ科多年生 山野の草地、コナラ林などに生育する。山王塚では、10月末に初めて見かけた。春の間伐で日が差すようになった藪に、ほっそりとした茎が白い穂を風に揺らしている。

現地説明会に思う

工事計画は自然に対する敬意を持って

不老川にかかる新宿線鉄橋の拡幅工事、としとらず公園の再生工事、それぞれが完成後2ヶ月足らずで崩壊してしまった。それらの改修工事を12月から行うというので、現地での説明を求めたところ、川越県土整備事務所の河川課長が出向いてくれた。

新宿線付近

上流から新宿線鉄橋の下にかけて、護岸を形づくっていたフトンカゴが流され、大きくゆがんでいる様子が水の力のすさまじさを見



せつけている。上流の落差工を撤去して、なだらかな傾斜の落差工の形にしたところ、その最終部分が洗掘されて深くなり、大雨で護岸を形成していたフトンカゴが引き込まれ崩れたとの説明であった。改修は、将来流れに削られないように河床にフトンカゴを敷いた上で護岸を整備するとのこと。

新宿線鉄橋の幅を計画通りに広げた後、下流の工事が完了するまで幅を絞る工事がなされ、その一部が流されたのであるが、上流を広げ、それを絞ったが故の災害に思える。川幅が極端に広いところと狭いところが生まれ、狭いところの流れが早くなり川底が掘られたための現象ではないか。単にフトンカゴを敷き詰めればよいという話ではないように思える。

としとらず公園

としとらず公園の再生工事は、子ども達が安心して遊べる親水公園にすることであった。ところが、左岸側はコンクリートで固められ滑りやすく危険で、魚も姿を隠す場がない。右岸側は、草が茂る土手のままにして、魚や虫が棲み着きやすい環境を残す計画であった。しかし、重機を置くために、本来手を付けずに置くはずの右岸土手に土を盛り、完成後土を固めただけの工事をし。そのため流れに削られ続けたもので、削られた砂利が右岸側にたまり、流れが左により、階段の1段目まで水に浸かり、せっかくの親水性が損なわれたものである。そこで、右岸はカゴマッ

トを敷いて土で覆う工事をする。その後流れつもった砂利などを取り除けば流れが元に戻り、親水性も蘇るとの説明であった。カゴマットに土が溜まり、草が生え、魚が身を隠す草むらができるまでにどれほどの時間がかかるのであろうか。重機を置く場所がないとわかった時点で市民と共に話し合っていれば、何か良い方法で合意できたと思われ、再改修という無駄をしなくても良かったはずである。

現地に立ったとき、水の力の大きさを知ると共に、その川の線を引いたとき、自然に対する敬意を持って調査し、想像力を駆使したのだろうか疑った。よりよい川にするために行政と市民の合意を探る上で現地を見ながらの意見交換は重要と思えた。ただ、その場で私たちの疑問や意見をきちんと述べるには、市民にも日頃の観察と、より一層の自然を知る努力が求められる。

(当日、環流水についても流れを見ながら話したかったが、工事のことのみで終わった
(村手)

環流水について

改めて考えること

不自然であるが、この川は環流水という水を得ることができた。水を得た川は、下流から魚を呼び、放流された魚も棲み着くようになっている。しかし、環流水は大量の電気を使う。私たちはこの水をただ漫然と流すのではなく、上手にコントロールする必要があるのではないか。川の様子を注意深く観察することによってのみ、それが行われると思う。

行政には、川から遠いところで川の様子にお構いなしに水を流したり止めたりするのではなく、市民の情報を利用したり計測計を設置したりして、川を見ながら環流水を扱って欲しいと思う。不老川にとって多自然川づくりとは護岸ばかりを言うのではなく、川の状態を見ながら環流水と付き合っていくことが大事な要素となるのではないか、そんなことを思った。

(村手)

第3回魚類調査

川のほとりで 水槽のぞき 井戸端会議

10月9日、行事の立て込んだ日、子ども達の魚捕り体験とはならず、大人だけの魚類調査ということで始めた。

まず投網の練習に4人が挑戦。複雑なやり方で一筋縄ではいかないが、皆なんとかクリアでき、これで会の戦力が付いた。



種類、量とも増えた。

流れに強いオイカワがほとんどだが、ゆるやかなところや、草や石など隠れるところがあれば、カワムツやモツゴも増えるだろうということだ。しかし、工事後は水際が固定され、魚の隠れ場所がない。

会のメンバー、スタッフ10人あまりに、川越の下流から駆けつけた人、自然大好き親子など加わって始めたが、やがて散歩人が次々と足を止めのぞき込む光景が終わりまで続いた。投網を眺めたり、水槽をのぞいたり。「こんなにいるのかね!」「ハヤを昔捕ったもんだよ」などなど、地域の人々が川の水辺で魚談義。これぞ求めていた不老川水辺の風景の一つではないかと思った。(H.T.)

新河岸川連絡会から応援の小林さん、伊藤さんの働きで捕れた魚は2つの水槽に一杯。水辺再生工直後の7月の時より

捕れた魚

オイカワ	47匹
カワムツ	8匹
ドジョウ	2匹
モツゴ	1匹
ザリガニ	10匹



写真 丸橋ユキさん

こんなにたくさんの魚が!

水野在住 鈴木恵子

10月9日不老川にて魚類調査を行うという事で、初めて参加させて頂きました。

見ていると、簡単そうな投網でも扱うのはとても難しいことを知りまして、思っていた以上に色々な種類の魚が捕れたのに驚きました。

思えば15年位前に、自治会の仕事として不老川のゴミ拾いに参加したことがあります。とても汚くて、悪臭もあり、ドブ川みたいと思った事がありました。

久々の不老川は、こんなにたくさんの魚が泳ぎ、水鳥もあちこちに見られ、川を愛する方々の日頃の努力の結果と、頭の下がる思いです。

魚の種類、大きさ、数を調べて川に戻すのですが、バケツから放たれてうれしそうに川の中に散っていった魚の背中に、もっと棲みやすくしてあげたいと思いました。

そして、川で遊ぶたくんの子どもの笑い声が聞こえたらいいな、などと思いました。



秋晴れの日 木の名札付け メンテナンス

川歩きクラブ

11月の川歩きは、木々をチェックし、風雨にさらされた名札やヒモを取り替えながら歩きました。9月の台風で根元から倒れたり、枝が折れた木が多々あり、また、ミズキの葉など枯れ具合の気になるものもあります。

が、クワなど若い木も伸びはじめ、「早く大きくなって木陰を作ってね」と呼びかけたくなりました。



不老川を巡る物語

不老川入曽地区住人

キツネノカミソリ生息地に住まいして三十年近くになります。この辺りはかろうじて自然が残り「私の雑木林」と呼んで日々親しんで参りました。

今夏「不老川流域川づくり市民の会」のご活躍を知り、我々の居住区が覆土改修されたこと、それは皆様のご尽力があったこと、だからこそ武蔵野の名残を享受できていること、を教えられました。

三十年近く川の歴史に寄り添って暮らし、工事や災害で移るいゆく自然を見つめて参りました。

不老川を巡る物語、それは目を閉じれば昨日の事のように蘇って来ます。

対岸の朝桜が曙色に染まる一瞬。産卵の鯉が鱗打つ音。秋は黄落中を歩むも佳し。

月光が枯尾花を揺らす冬には、鷹と鷹匠の威風堂々の行進を眼前（まなかい）にしたことも。

台風に倒れた桑、ニセアカシアの大木、古木。

又、蕾を孕んだ桜が伐採された河川工事の一日、現場監督さんが周辺一軒一軒に切枝を配って供養して下さったこと・・・

こうして振り返れば、この川に育ててもらったようにも思えます。私の歳月を重ねてきたのですから。

末筆ながら「私の雑木林」を護って下さった皆様に深く感謝申し上げます。



{ 流域情報 }

11月26日東村山市で“みんなで考えよう！いい川づくりといい街づくり”と題して、空堀川に清流を戻す会主催の集会がありました。特に吉村伸一氏の「今後は行政と市民の協働についての具体的な仕組みづくりが必要だ」との提案には同感しました。

12月9日入間市東藤沢小学校5年生の環境学習で、“不老川とは”と題して、成り立ち、水質水量、生き物等の話をしました。寒い体育館で熱心に聞いてくれました。下水道と川の水質の関係の話は多少難しかったかなと思いました。

例年の埼玉県“川の再生交流会が来年2月4日にさいたま市民会館で行われることになりました。詳細は県のHPに掲載されますので参加しましょう。”
(相馬 記)

おさそい

田上はるか

不老川 水彩画展

昨年初夏から初秋に掛けて描いた不老川入曽地区の風景です。

2月1日から28日まで
入曽公民館階段ギャラリー

共催：不老川川歩きクラブ

川づくりに参加しませんか

定例会：毎月第3土曜日13:30～

年会費：1000円 詳細は下記世話人まで

入間市 相馬 04-2965-1741

狭山市 村手 04-2957-3425

所沢市 小黒 04-2923-8946

川越市 高木 0492-43-9828

編集後記

不老川には生活と川が溶け合っているところがあって、何ともいえぬ味わいがあると感じていたが、川辺の住民の思いを知るとさらに味わいが濃くなる。「日本一汚い川から清流へ」だけの見方で語られたらもったいない。住民や散歩人としてこの魅力をもっと発信していけば無残な工事にブレーキもかけられるかと思ひ見る。(H.T.)